

第8章 ポップカルチャーと英語

英語になった日本語に注目してみると、いくつか気になる現象がある。その中のひとつとしての日本のポップカルチャーや社会現象が世界中にそのまま日本語として広がっていくことがある。特にインターネットが普及してからはその速度は速くなっている。今回、*Oxford Dictionary of English* (2010)と *Longman Dictionary of Cotemporary English* (2014)に注目し、hikikomori, cosplay, emoji に注目した。日本語では「ひきこもり」「コスプレ」「絵文字」である。

1 hikikomori⁽¹⁾

(1) 「ひきこもり」とは何か

日本では一般に「ひきこもり」(引籠り)はどのように定義されているのだろうか。新村出編『広辞苑』(2008、第六版)を見てみよう。

自宅や自室に長期間とじこもり、他人や社会と接触しないで生活する状態。一九九〇年代に青少年の間で増加し社会問題化。(新村 2342)

『広辞苑』には男女については記載されていない。

「青少年」という表現はやや男性的な表現ともいえるが、『広辞苑』では「青年と少年。こどもとおとなの中間の若い人たち」(新村 1543)と定義されている。いずれにしてもはっきりと男性という表現をしていないまでも、女性を意識させる言葉も出てきていない。青年と少年の言葉はもともと男女関係なく使用する言葉である。青年という言葉が法令上使用されているものとして、青年等の就農促進のための資金の貸付け等に関する特別措置法があるが、その定義を見ておきたい。

(定義)

第二条 この法律において、「青年等」とは、次に掲げる者をいう。

- 一 青年 (農林水産省令で定める範囲の年齢の者をいう。以下同じ。)
- 二 青年以外の者で、近代的な農業経営を担当するのにふさわしい者となるために活用できる知識及び技能を有するものとして農林水産省令で定めるもの

また、少年についての定義については児童福祉法第四条を見ると、次のように定義されている。

第四条 この法律で、児童とは、満十八歳に満たない者をいい、児童を左のように分ける。

- 一 乳児 満一歳に満たない者
- 二 幼児 満一歳から、小学校就学の始期に達するまでの者
- 三 少年 小学校就学の始期から、満十八歳に達するまでの者

法令上の言葉として男女は関係なく、ある一定の年齢によって区分されている。問題は海外での印象がどのように受け止められているかということだ。国内外において「ひきこもり」を特に印象付けたのは宮崎勤の幼女誘拐殺人事件であった。

東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件（広域指定第 117 号事件）は 1988 年 8 月から 1989 年 7 月にかけて宮崎勤(1962-2008)が引き起こした事件で、2008 年 6 月に死刑が執行された。

逮捕後の家宅捜索では約 6000 本のビデオテープの存在が明らかになり、その光景も報道番組で取り上げられたことは視聴者に鮮明な印象を与えた。さらに、自らアニメ同人誌を発行、晴海のコミックマーケットに漫画を出品しているなどの背景もあった。この事件によりオタクのイメージは根暗、ひきこもり等といった極めてマイナスのイメージで捉えられるようになった経緯がある。世間の人々が注目していなかった、あるいはごく限られた人達が知っているものや情報を持っているサブカルチャーに対する見方がこの時、大きく揺らいだと言ってよいだろう。また、好事家として収集しているものがあまりにも多いコレクターやマニアにも世間的に冷ややかな視線が向けられるようになった。(佐々木 9)

これにはもうひとつのキーワード「オタク」(otaku)との関連が見てとれよう。「オタク」の定義には男女に関する表現はないが、『電車男』(2004)の印象も否定することはできないだろう。

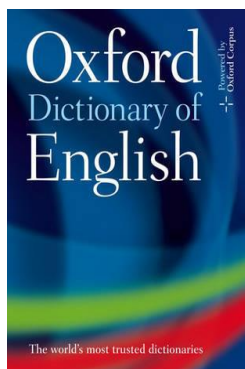
ここで厚生労働省が「ひきこもりの評価・支援に関するガイドラン」(平成十九年度)の中で定義した「ひきこもり」とは次の通りである。

様々な要因の結果として社会的参加(義務教育含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性を低くないことに留意すべきである。」⁽²⁾

ここには男女のことを記載されていない。しかし、おそらくこのひきこもりを世間的にもブレイクさせたのは、一九八八年～一九八九年に起こった宮崎勤の幼女誘拐殺人事件では

なかつたらうか。この頃はオタクという言葉も流行り始めていた頃で、宮崎勤の部屋に積まれていたビデオテープ（約六〇〇〇本）の光景はあまりにもショッキングだったかもしれない。こうした「オタク＝ひきこもり」といった著しくネガティブな方程式が世間的に出来上がってしまった感がある。

（２）英語になった“hikikomori”



2010年8月に *Oxford Dictionary of English* の第三版が出版された。この中で新しく英語になった日本語がある。それが hikikomori である。もちろん 2010 年以前にもこの hikikomori は宮崎勤の少女連続誘拐殺人事件の海外報道でもそのまま使用されていたが、今回は Oxford 系の紙媒体の英語辞典に見出し語として掲載されたということに大きな意味がある。定義は次の通りである。

(in Japan) the abnormal avoidance of social contact, typically by adolescent males. ■ a person who avoids social contact.—ORIGIN Japanese, literally ‘staying indoors, (social) withdrawal.’ (Oxford 828)

ここで注目しておきたいのは、typically by adolescent males というところだ。前述の宮崎勤のイメージがあまりにも鮮烈であったため、欧米でもこの事件の報道では hikikomori という言葉が一過性的に用いられたことがあった。欧米では児童福祉に関する考え方が日本とは比較にならないほど厳しいものがある。これを考えると、宮崎事件の影響がこの hikikomori の定義に大きな影響を与えたとしても不思議ではない。

ひきこもりは「家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念」とあるが、1990年代以降はインターネット時代であり、必ずしも対面を必要としないコミュニケーション・ツールが格段に発達したことも大きな要因であることは誰も否定できないだろう。しかし、ジェンダーにはかなりこだわりのある海外では、いつになったら、定義から male がはずされるのかが気がかりだ。以上はいわゆる一般の英語辞典に記載されたものだが、これ以前にも英語として紹介されているものもある。Patrick W. Galbraith. *The Otaku Encyclopedia* (2009)では次のような定義となっている。全文を紹介しておきたい。

Hikikomori (ひきこもり) : A social shut-in who never leaves his or her room. This is understood by most to be a symptom of mental illness. Typically these people are bullied at school and are unable to cope with the outside world. Hikikomori can be supported for years by their parents and only communicate with the outside world via their computers. Hikikomori are not necessarily OTAKU and should

not be mistaken as such. By definition they lack the ability to communicate and thus withdraw into a passivity that exudes them from even the most basic of tasks: otaku tend to be the opposite, using cultural products (ANIME, MANGA, FIGURES, MAID CAFÉS) for some form of activity. Hikikomori are also often confused with NEET (Not Employed, in Education or Training), social loafers who choose to buck the system by not participating in it fully. NEET, however, can be a badge of honor. People may say “I’m NEET!” but no one would ever say, “I’m hikikomori!” (Galbraith 100)

ここではひきこもりとニートの関係が指摘されていることは注目すべきであろう。Héctor García. *Geek in Japan* (2010)では“HIKIKOMORI”について2ヶ所で解説している。少し長くなるが紹介しておきたい。

To refer to otaku in a negative sense—to those who really are obsessive and never go out so they can spend all their time at home with their hobbies—the new word *hikikomori* was coined. *Hikikomori* is considered an illness, and those who suffer from it shut themselves in at home to the point that they stop going to school or work and don’t socialize at all. Many Japanese people are affected by this syndrome, and it’s becoming a serious problem. Psychologists who study it point to the great social pressures on young people and their entry into the adult world as possible causes. Many young people feel unable to integrate into the system and they give up, confining themselves to worlds of fantasy that they can access by playing video games, reading manga, or surfing the Web.

Even without being *hikikomori*, the most extreme otaku don’t socialize much. They are usually fans of anime, manga, and video games, and in general they lead a rather solitary life. They work *arubaito* (part-time jobs) to earn just enough to eat and buy the latest item in their favorite series. They spend weekends at home and are usually single. On the rare occasions they do go out, they go to conventions, events, or shopping in Akihabara. (García 87)

さらに別の箇所では次のように取り上げている。

Hikikomori is a term used to refer to the social isolation into which many young Japanese are plunged. Those suffering from this syndrome shut themselves away at home and spend their time watching television, playing video games, and surfing the Internet. They are usually teenagers who’ve been frightened by the degree

of competitiveness they'll face in society when they finish their studies.

They “decide” to shut themselves off and withdraw from society as soon as they leave high school, sometimes remaining at home for months or even years.

Having a hikikomori in the family is frowned upon; it creates an embarrassing aura that leads the parents to try to hide the problem.

This phenomenon started in Japan but is apparently spreading to Korea, where there is also a lot of competition to enter the best universities and then find a job that will define your life. Many studies by psychologists confirm that a main cause is the pressure created by a society defined by extreme capitalism and an extremely meritocratic education system. (García 93)

榎村愛子「日本の『オタク文化』はなぜ世界的なものとなったのか」(2007)の「(2) オタク文化とひきこもり、ニートの親和性」で次のように述べている。

オタク文化は直接、ニートやひきこもりと重なっているわけではないが、他者関係の困難という点で親和性をもつと思われる。...ひきこもりでは、オタクのように友人関係でつまづくというよりも、親が世間的視線を内化し、子どもをその視線でしか評価できず、ひきこもり者が自己を肯定できないという点が見られる。...しかしオタクがすでに他者との関係を断念して、二次元空間に逃避するなど、硬い防衛機制をとっているのとは比べ、ひきこもりは他者や関係に対する強い希求があり、希求の純粹さゆえに現実の関係を受け入れられないとされる。(榎村 11-12)

ひきこもりへの対応という反対の立場から見ればコンサルタントやカウンセラーがどのように対応しているかもひきこもりとは何かを探る糸口になろう。諸星ノア『ひきこもりセキララ』(2003)では次のように述べている。

コンサルタントとカウンセラーは違う。前者は相手に積極的に助言や指導を与える専門家だが、後者は来談者(クライアント)の心の声に耳を傾け共感することに主眼を置き、クライアント自らの力で問題解決に立ち向かうまでを辛抱強く支える専門家なのである。相手を変えるのではなく、変わるのを“待つ”のが仕事なのである。カウンセリングの根本には、クライアント自身に自己治癒の能力があるという考え方がある。(諸星 183)

ひきこもりは今では社会的な問題ともなっているが、電子メディアに囲まれた現代の子ども達の環境はどのような特性を備えているだろうか。深谷昌志『子どもから大人になれない日本人』(2005)では次のように紹介されている。

- ① 家族からパーソナル
- ② モノからマルチへ
- ③ ゼロから無限へ
- ④ 努力からイメージへ

このように考えてくると、子ども部屋の中で、①自分専用の、②多くのメディアと接しながら、③多くの情報を、④簡単に入手できるのが、現在の子どもを巡る状況であろう。(深谷 196-198)

この電子メディア化社会における功罪には両面性がある。

- ① 情報や知識の増大と直接体験の矮小化
- ② 人間関係の広がりとはきこもり
- ③ 自尊感情の高まりと自信喪失 (深谷 200-201)

メディア社会はひきこもりやオタク文化にはプラスの面とマイナスの面の両方を考える必要がある。

インターネットで“hikikomori”を検索すると例として次のような記事にヒットする。

Hikikomori: Why are so many Japanese men refusing to leave their rooms?

By William Kremer and Claudia Hammond BBC World Service 5 July 2013

From the section Magazine ⁽³⁾

記事の内容でも気になるところがある。

As many as a million young people in Japan are thought to remain holed up in their homes - sometimes for decades at a time. Why?

In Japan, hikikomori, a term that's also used to describe the young people who withdraw, is a word that everyone knows.

The Truth about Mental Health: Hikikomori will be broadcast on the BBC World Service at 14:30 GMT on Friday 5 July

斎藤環のコメントなども引用されている。

Tamaki Saito was a newly qualified psychiatrist when, in the early 1990s, he was struck by the number of parents who sought his help with children who had quit school and hidden themselves away for months and sometimes years at a time. These young people were often from middle-class families, they were almost always male, and the average age for their withdrawal was 15. It might sound like straightforward teenage laziness. Why not stay in your room while your parents wait on you? But Saito says sufferers are paralysed by profound social fears.

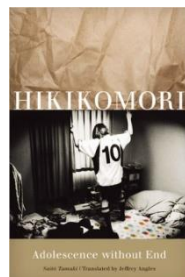
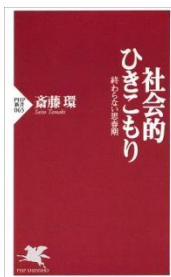
また、別のサイトも見てみたい。

Hikikomori, Solitary Youth of Japan

By definition, the hikikomori (the term can also be used in the plural) is one who withdraws from society. The Japanese word hiki means "to pull" and komoru means "retiring" or "withdrawing," hence the sense of pulling out from society.

1 5 The hikikomori is considered a uniquely Japanese phenomenon. The hikikomori is typically a male (80% are male), teenaged to 30 years old, who has quit school, has no technical skills, and is unemployed, living in his room in his parents' house, never coming out, taking meals left at his door by his parents, passing the day reading, websurfing, viewing television, idling. ⁽⁴⁾

2010年に紙媒体の見出し語として“hikikomori”が入ると、ネットにおいてもかなりしっかりとされた定義がなされるようになった。その背景には日本でも斎藤環が「ひきこもり」に関する書籍を出版し、一定の評価を得ていることとも関係があるだろう。

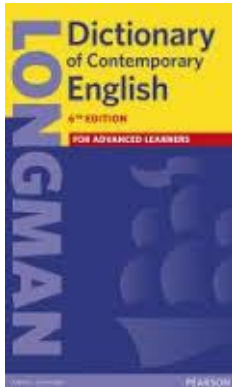


斎藤環『社会的ひきこもり』(1998)は英訳されたのが、Jeffrey Angles, translator. *Hikikomori* (2013)である。*Oxford Dictionary of English* (2010)に見出し語として取り上げられるようになったことはこうした翻訳書の出現に大きな追い風になったものと思われる。今や日

本だけの現象でもなくなったようだ。

2 絵文字

絵文字 emoji がようやく紙媒体の辞書に見出し語としても入った。絵文字は、日本が世界に広げた emotion の表現方法のひとつである。*Longman Dictionary of Contemporary English* (2014)にはつぎのように定義されている。



n [C] an ICON, similar to an EMOTION, used in electronic messages and on websites, originally in Japan (Longman 581)

ここで現代における絵文字の歴史について触れておきたい。ネット上には以下のような記述がある。

絵文字の歴史

テキスト形式でのメッセージ交換が中心だった昔は「顔文字」とか「エモーティコン」といって、アルファベットや記号などを組み合わせて顔や感情などを表現していた。それを文字フォントの形で表現できるようにしたのが絵文字である。

絵文字は当初、日本の携帯電話（NTT ドコモ、ソフトバンク、KDDI）で広く使われていたが、それらをベースにして 2008 年頃、Unicode (用語解説) 規格への統合が行われた。携帯電話やチャットアプリなどで使われていた絵文字を全て取り込んで相互運用性を確保したことにより、その後は急速に絵文字の利用が進んだのは承知の通りだ。昨今では欧米圏でもインターネットやメールなどで絵文字が使われるシーンが増えてきており、2015 年には Oxford Dictionaries の 2015 年の単語にも選ばれたほどである。⁽⁵⁾

長くなるが、Oxford Dictionaries のサイトも見ておきたい。

Beyond words: how language-like is emoji?

The decision by Oxford Dictionaries to select an emoji as the 2015 Word of the Year has led to incredulity in some quarters. Hannah Jane Parkinson, writing in The Guardian, and doubtless speaking for many, brands the decision ‘ridiculous’ — after all, an emoji is, self-evidently, not a word; so the wagging fingers seem to say. And indeed, the great English word is, for many, the most sacred cornerstone of ‘our magnificent bastard tongue’, as John McWhorter so aptly dubs the language of Shakespeare. But is such derision really warranted? After all, we live in a brave new digital age. And the media we use to connect and communicate with our nearest and dearest, as well as a virtual world peopled by ‘followers’ and ‘friends’ we’ve never met, surely requires somewhat different communicative systems. And systems, such as emoji, are adaptations to this most recent arena of human discursive intercourse. They get the job done when the tried and tested interpersonal cues, that oil spoken interaction, are impossible or absent. But is emoji,

which is most definitely a communicative system, so different from language?

The communicative functions of language

English, like any other natural language, has two major communicative functions. The first is an ideational function: to get an idea across, as when I say, It's raining, or I love you. It also has an interactive-interpersonal function: to influence the attitudes and behaviours of others, and, in a myriad ways, change an aspect of the world's states of affairs in the process. This can range from the mundane, as when I ask someone to shut the door on the way out, ensuring the door's position conforms to my wishes. But its influence can also be rather more significant, as when a member of the clergy pronounces two individuals, husband and wife, concluding an act of marriage, and thereby transforming the moral, romantic, financial, and legal status of the two individuals vis-à-vis one another.

But emoji can also fulfil these two major functions. In January 2015, a 17 year old from Brooklyn, Osiris Aristy, was arrested for making an alleged 'terroristic threat' based on the NY terrorism statutes introduced after 9/11. His alleged crime was posting a public status update on his Facebook page threatening NY police officers. But what was unusual was that the alleged threat was made up solely of emojis: a police officer emoji, with handgun emojis pointing at it.

The NY District Attorney, in deciding whether to issue an arrest warrant, used the communicative standards that apply to language: his, perhaps reasonable, inference, was that the teenager was threatening gun violence towards the NYPD. And indeed, when his home was raided, Aristy was found to have a .38 calibre Smith and Wesson revolver. While, ultimately, a Grand Jury declined to indict Aristy, and the case was dropped, Aristy's emojis were evaluated in the same way as if he had written 'gonna shoot a cop'. The legal question, and judgement, turned on whether the two self-same communicative functions of language also applied to his alleged emoji offence: did the meaning conveyed by the emojis amount to an attempt to influence the behaviour of others, and incite gun violence, or indeed, represent an intention to cause harm, himself, to New York's Finest. In short, did he mean to go through with it? Was this merely foolish chatter, or a cold-blooded threat? And that, in itself, is a salutary lesson: in terms of digital communication, others are liable to interpret our intentions as much from our emojis, as the words we type — emojis matter: they can and will be used against you in a court of law. ⁽⁶⁾

3 コスプレ

日本のポップカルチャーの影響で英語になった日本語のひとつに「コスプレ」が上げられる。マンガ、アニメが英語になったのと同じ様なプロセスを経ている。costume play を単に短縮したものが cosplay ではないということだ。

「コスプレ」は、言葉から見ても日本はおろか世界に出ても通用するほどの文化となっています。オタク文化の中心であると共に具現化できる代表的な例として、一般の方にも広く知れ渡っています。

コスプレとは、アニメやゲームのキャラクターの衣装を身にまとう行為のことを指し、コスチューム・プレイという言葉から派生した和製英語です。

面白いことに通常は和製英語は英語圏で通用することはほとんどありませんが、この「コスプレ」という言葉は、日本から逆輸入したもののため通用するようです。

(ヒロヤス 60)

これを 2010 年の辞書で確かめておきたい。

cosplay ▶noun[mass noun] the practice of dressing up as character from a film, book, or video game, especially one from the Japanese genres of manga or anime.
▶ verb[no obj.] engage in cosplay.
—DERIVATIVES cosplayer noun.
—ORIGIN 1990s: blend of COSTUME and PLAY (Oxford 394)

はっきりと特に「日本のマンガ、アニメから」と明記されている以上、日本のポップカルチャーの影響があると言ってもよいだろう。

注

- (1) 佐々木隆 「『ひきこもり』とは何か」(『オタク文化論』イーコン、2012年1月)で発表した内容にさらに加筆した。
- (2) 厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」(平成19年度)、p.6.
- (3) “Hikikomori: Why are so many Japanese men refusing to leave their rooms?”
(<http://www.bbc.com/news/magazine-23182523>)(2016年5月1日アクセス)
- (4) “Hikikomori, Solitary Youth of Japan” (<http://www.hermitary.com/solitude/hikikomori.html>) (2016年5月1日アクセス)
- (5) 「絵文字の歴史」(<http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1604/27/news051.html>) (2016年5月1日アクセス)

(6) 「Beyond words: how language-like is emoji?」

(<http://blog.oxforddictionaries.com/tag/word-of-the-year/>)(2016年5月6日アクセス)

引証資料

新村出編『広辞苑』岩波書店、2008年1月、第6版

佐々木隆『オタク文化論』イーコン、2012年1月

樫村愛子「日本『オタク文化』はなぜ世界的なものとなったのか」(『愛知大学文学論叢』
第136号、愛知大学文学会、2007年1月)

諸星ノア『ひきこもりセキララ』草思社、2003年10月

深谷昌志『子どもから大人になれない日本人』リヨン社、2005年3月

ヒロヤス・カイ『オタクの考察』シーアンドアール研究所、2008年2月

Oxford Dictionary of English. Oxford: Oxford University Press, 2010, 3rd edition.

Galbraith, Patrick W. *The Otaku Encyclopedia*. Tokyo: Kodansha International,
2009.

García, Héctor. *A Geek in Japan*. Tokyo: Charles E. Tuttle, 2010.

Longman Dictionary of Contemporary English. England: Pearson Education Limited,
2014.